



あいさつ運動 ～地域で見守る登校時間～

5月7日(木)から各地区で「あいさつ運動」が始まりました。平林区でも土日を除く5～6日間、区長はじめ区役員や保護者の皆さまのご協力のもと、登校時間帯に通路や交差点で行われました。ゴールデンウィーク明けの実施となりましたが、子どもたちは元気に登校する姿を見せてくれました。

「おはようございます」の声かけに、元よく返事をする子や少し照れながら会釈をする子の姿が見られました。黄色い帽子をかぶった1年生が手を挙げて横断歩道を渡る様子は、特に元気いっぱいの笑顔でした。

朝の通学時間帯は車の通行も多く、地域で見守ることの大切さを改めて感じました。また、今回の活動を通して、子どもたちと地域の方々があいさつを交わす温かな場面が多



く見られ、声かけや見守りは、子どもたちが安心して登校できる環境づくりにつながっていることを実感しました。

朝のお忙しい時間帯にもかかわらず、ご参加・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。今後も地域全体で子どもたちを見守りながら、あいさつの輪が広がっていくことを願っています。(青少年育成部)

人権教育研修について

5月21日(木)古牧公民館にて、各地区の人権・男女参画部員の研修会を実施しました。

この研修会は、3地区が持ち回りで前年度の人権教育研修の実施状況を発表し、それぞ



れの研究手法や研修テーマを今年度の地区研修に活かす趣旨で行いました。

今年発表した3地区とその研修内容は、上高田区が講演会(戦争と人権「満蒙開拓」歴史から考える)、五分一区がDVD視聴(「わたしと人権」「障がい者とのふれあいと人権」)、東和田区がDVD視聴(「あなたの笑顔がくれたもの」)でした。

各地区とも、研修参加者の選定や人権意識の醸成に必要な手段について試行錯誤中であり、他地区の内容や自地区の過去の内容を振り返り、今後の研修の在り方について意見交換をしました。

地域の皆様には、各地区で開催される人権教育研修会への積極的な参加をお願いいたします。(人権・男女参画部)

健康づくりと福祉推進員の役割 ～福祉推進員研修会～

5月14日（木）福祉推進員等47名が参加し、古牧公民館で福祉推進員研修会が開催されました。

講師に三陽保健センター保健師4名と管理栄養士1名をお迎えし、「古牧地区の健康づくりのポイントは何？」についてお話しいただきました。生活習慣と検診結果との関連を川の流に置き換えて、栄養素等が心臓から血管を通り血液によって体の各所へ送られているとの解説を伺い、血管の役割の重要性を再認識しました。次に、塩（ナトリウム）の取り過ぎについて、長野市民は、摂取推定量の目標値である男性7.5gに対し12.8g、女性は6.5gに対し11.1gと多く、これは野沢菜、奈良漬等の摂取量の多いことが原因かと思われるなど、1時間にわたり説明を受けました。

続いて、長野市社会福祉協議会から「福祉



健康づくり



福祉推進員の役割

推進員の役割について」のお話がありました。福祉推進員の役割は、お茶のみサロンの開催や地域福祉懇談会への参加のほか、日常のちょっとした「見守り」等について、福祉推進員同士で情報共有を図り秘密を守ること、「ひとりにしない、させない地域へ」との講演をいただき、最後に参加者4名が1グループになってお互いの地域の現状について話し合いました。そこでは「お茶のみサロン等の参加者の顔ぶれがいつも同じなので声かけが必要」とのお話しも聞きました。

（福祉健康部）

子育てのいろは

～子育て支援部研修会～

5月22日（金）古牧公民館にて子育て支援部の研修会が開催されました。

柳町保育園子育て支援センター支援員の井上有香さんと山王保育園子育て支援センター支援員の橋倉佳奈さんを講師にお迎えし、「子育てのいろは」をテーマに、子育て支援するにあたって大切にしていることや取り入れたい遊びについてお話をお聞きしました。

まず、子育て支援するにあたっての大切な



ポイントは、あたたかく迎え入れること、身近な相談相手になること、利用者同士をつなげること、利用者と地域をつなげること、そして守秘義務です。

初めての場所に来る方の不安な気持ちは、こちらが笑顔で迎えることで取り除かれますし、親御さんから相談があったときは直ぐ答えるのではなく、まず相手の話にじっくり耳を傾けることが大切とお話がありました。

遊びについては、わらべうたを歌って手遊びをしたり、お手玉を使ったりする昔ながらの遊びが新鮮で面白いそうで、研修会の参加者同士で「げんこつ山のたぬきさん」や季節のわらべうたを歌って手遊びをやってみました。絵本の紹介もあり、何冊か読み聞かせをしていただきました。

年々保育園に預けるお子さんが低年齢化していて、それぞれの地区の子育て広場への参加は多いとはいえませんが、参加して下さるお子さんや親御さんにとって安心できる場となるよう心がけていきたいと思います。

（子育て支援部）

～学校と地域で子どもの安全を守る古牧地区連絡会～

5月18日（月）「学校と地域で子どもの安全を守る連絡会」が古牧公民館で開催されました。

この連絡会は、子どもの安全を守る施策として、防犯部と交通安全部が共催し、来賓7名をはじめ、住民自治協議会役員等計58名が出席しました。

まず長野中央警察署和田交番所長の柳沢秀雄様から、令和7年度の交通事故件数や不審者情報件数等を報告いただき、その内容に基づいて具体的対応内容等をご指導いただきました。

次に4月1日から適用された自転車への青切符（交通反則通告制度）の制度の内容や導入の経緯、導入後の交通違反の手続きについて具体的に説明していただきました。

また、子どもへの声がけ等不審者情報については、「一人で遊ばない、遊ばせない」「家族に行先を伝えていく」を徹底すること、地域住民で子どもを守るためには子どもとのコミュニケーションが必要ではあるが、無理にコミュニケーションを取ろうとすると逆に不審者と間違われるので注意が必要とのことでした。

次の事例発表では、小中学校の教頭先生方



から安全教育や防災・防犯への今年度の取り組みについて具体的内容を発表していただきました。

その後質疑応答に移り、地域のクラブ活動を含む中学生の自転車通学についての質問に、中学校の教頭先生から、地域クラブで活動する場合は自転車通学を認めているが、自転車保険への加入と自転車通学の申請をお願いしているとの説明がありました。

最後に安全部会長から、防犯パトロールの人員不足の区があり、住民自治協議会の取り組みとしてやり方を考えていく必要があるとの問題提起がありました。

総じて、発表に具体性があり、改めて子どもの安全について考えさせられる連絡会となりました。（防犯部）

きれいな信州環境美化運動～春のごみゼロ運動～

5月24日（日）北条区において、春のごみゼロ運動（区民による一斉清掃）と育成会主体の資源回収が行われました。「ごみゼロ運動」は、長野県が実施する「きれいな信州環境美化運動」の趣旨に沿って毎年5月と10月に行われる区民による一斉清掃活動です。



一斉清掃

北条区では、道路側溝の蓋がけが多いため、側溝の泥上げよりも道端の草刈りとポイ捨てごみの回収が中心となっています。近年、古牧地区で大量の吸い殻

ポイ捨てが報告されていますが、北条区では、ここ数年一斉清掃時のポイ捨てごみ回収量は少なくなっており、区民の美化意識が強くなっていると感じています。



資源回収

育成会（保護者・児童）の皆さんには年数回資源回収に参加していただいております。この日も古紙の収集と仕分けを行っていただきました。この資源回収の意義や仕組みを今後も育成会の皆さんに伝えていきたいと思っております。

（環境美化部）

高田台地と山崎の渡し

古牧郷土史研究会 山崎 慶 昭

善光寺平西の裾花川から分かれて東へ流れる八幡川（信毎本社南側で南北八幡川に分水）低地帯の南に、高田台地があります。台地の南縁（上高田・南高田）に沿って高さ1～2mの崖が続いています。西光寺本堂の参道南にある崖は高さ2mあり、本堂北側のゆるやかな八幡川低地への傾斜と好対照をなしています。この台地の北縁から上高田まで導かれた南八幡川が北折して北に向かう地点



（二枚橋分水地上流）は、にわかに急流となり台地から低地への傾斜を明示しています。高田の地名はこの地形から名付けられました。

高田台地の南にはドブ川低地があり、昔は犀川の流路であり、七瀬を経て流れていた裾花川の旧流路でもありました。このドブ川は低地の途中で地下水が流出したもので、今でも南高田ガケ下から花園団地にかけて地下水が出ていて、以前はセリの栽培地として知られていました。

裾花川は現在、南に流れる犀川とつながっています。昔は県庁あたりから七瀬を経て、南高田へ流れていたといわれていました。慶長8（1603）年、松代藩主・松平忠輝が、氾濫をくり返す裾花川の治水対策として犀川につなげる工事を行ったという説があります。

「山崎の渡し」は、旧裾花川の渡し場として多くの郷土史研究家が訪れ、南長池にある「舟着き場跡」とともにその名残をとどめています。

しゃばえんびつ



世代を超えて愛されるスーパーマリオ

私が子どもの頃から親しんできた「スーパーマリオ」を、今では自分の子どもたちも夢中になって楽しんでいます。ゲームで一緒に遊ぶこともあり、子どもたちが楽しそうにしている姿を見ると、自分が子どもの頃のワクワクした気持ちを思い出します。先日は子どもと一緒にマリオの映画も観に行き、親子で同じ作品を楽しめることに温かい気持ちになりました。

時代とともに遊び方やゲーム機は変わっても、本当に良いものは変わらず愛され続けるのだと感じます。長い間たくさんの人を笑顔にしてくれたスーパーマリオは、世代を超えて人と人をつなぐ魅力のある作品なのだと改めて実感しました。

（安田 晃子）



古牧地区の世帯数と人口

令和8年6月1日現在

12,121 世帯

26,004 人

（男 12,844人 女 13,160人）

■発行所 古牧地区住民自治協議会
（電話259-8359・FAX219-1057）
（E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp）

■発行者 平出 信人
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 ㈲小池印刷

HPご覧ください



古牧住自協